

話題あれこれ

(栗山香代子議員)

被災地・大槌へ行く

7月15日(金)の夜に厚木を発ち、被災した実家の様子を見てきました。

北上江釣子インターチェンジを出て、遠野経由で、被災地釜石、大槌へ向かいました。



道路わきは瓦礫の山

れが廃墟というものかと思う。

道路に信号は点いておらず、車はスピードを落として走る。その先は瓦礫の山。

海のすぐそばの釜石市両石地区では、建物の名残は鉄骨だけ。引っかかったものが風に吹かれている。釜石市鶴住居(うのすまい)地区。5階建ての公営住宅の3階の中ほどまで、波が来たようだ。



津波が3階まで来た公営住宅

大槌へ入る。津波が3階まで来た公営住宅小学校は焼けていた。この裏に仮説の役場ができています。安渡小学校近くには、原形をとどめていない車が積まれていた。すぐ近くに、昨年建てたばかりの従姉の家の跡。昨夏行った時の閑取りの記憶をたどる。実家の近くにあった鉄橋は跡かたも無く、通り過ぎて気がついた。実家のあった場所は、本当に、何も無い。瓦礫も片付けられ、あるのは、コンク

リートの土台だけ。近所は、皆、そうだ。

海を見に行く。小さい頃は両親と、中学生になってから

は友人と行った浪板海岸。松林では松が折れていた。残った高い松の木の枝に看板が刺さっていた。あんな高いところにまで、波が来たのか。

防波堤に波がぶつかる。引いていく波に洗われ、小石のカラカラという音が続く。そばで、若い男性が二人、サーフィンを楽しんでいた。他には誰もいない。今年は、誰もこの海で遊ぼうという気にならないかと思ったが、そうではなかった。

瓦礫撤去だけでも、自治体や地域での差を感じました。役場に行くと、総務課長は団体からの支援金の受付に行っているということで、会わずに帰ってきました。支援物資の受け付けはすでに終了し、仮設住宅の設置に伴い、避難所の解消に向けているとのことでした。

実際に仮設住宅や公営住宅に入居した人の話では「2年間は家賃が要らないが、その後どうなるのか。大変不安だ」とのことでした。「物資の支援よりお金が必要だ」という言葉に、これからの支援のあり方を考えて行かなくてはいけないと思いました。

17日(日)に厚木に戻りました。月曜は定例の本厚木駅頭宣伝。普段なら、国民の祝日でお休みにするのですが、現地から帰ったばかりの私は、震災後、ずっと、選挙中も続けている駅頭宣伝時の救済募金活動をやらすには居られませんでした。

駅頭で現地の様子を話すと、部活に行くバス待ちの中学生が募金をしてくれました。被災者の苦しみはずっと続くのであり、支援も続けていかなくてはなりません。



コンクリート土台だけの実家跡

話題あれこれ

(釘丸久子議員)

厚木でも太陽光発電の実証実験

東日本大震災、福島原発の事故以来、自然エネルギーへの関心が高くなっています。

厚木市温水の丘の上にSEL(熱半導体エネルギー研究所)が、太陽光発電の実証実験を始めました。その説明会が7月16日に行われ、地域の人々約50人が参加しました。



1600枚のソーラーパネル

設置目的は、①温室効果ガスの削減並びに環境意識を高め、さらなるエネルギーシステムの普及促進に貢献するため、②将来、自社で作製したソーラーパネルの実証実験を行うため、としています。

ここは以前は畑でした。丘の上、遮るものは何もありません。面積は5950㎡(1800坪)、ソーラーパネルの面積は2098㎡(635坪)、最大出力は300kWです。パネルは3種類、いずれもシャープ製です。SELと共同で開発したものの。変換効率が13.6%~16%です。現在25%までは出せるが、将来的には50%にまで引き上げたいとしています。今回の実証実験は経産省の補助金を受けて実施。約5億円の経費がかかったといひます。

太陽光発電の問題点について、①雨や曇りでは発電量が5分の1くらいに落ちる。夜は発電しない。蓄電をどうしたらよいか。②現在は、設置に費用がかかる。コストを安くし、売電金額を高くすることが必要。パネルの耐用年数(保証期間)は20年だが、それでは元は取れない。端子やケーブルが劣化、腐食するのではないかと。③汚れは、雨によって洗い流されるが、鳥の糞など乾燥すると取れにくい。など、具体的にわかりやすい説明がされました。今年2月9日から7月8日までの発電量は16万4730kWh。発電した電力は、直流を交流に変えて、東京電力に売電しています。参加者からは「近所の家庭に無償で提供したらいいんじゃないか」との声も。

SELではさらに、隣接した土地に広げたいとしています。自然エネルギー、再生可能エネルギーとしての今後を期待したいところです。



現在の発電量を明示